

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-139	22-316	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Role of Hemodialysis in Acute Severe Alcohol Intoxication: A Meta-Analysis. 急性重症アルコール中毒における血液透析の役割：メタアナリシス。		
<b>執筆者</b>		
Zeng S, Ma L, Yang L, Hu X, Wang C, Guo X, Li Y, Gou Y.		
<b>掲載誌</b>		
Blood Purif.2023;52(3):296-308. doi: 10.1159/000527622. Epub 2022 Nov 30.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
急性重症アルコール中毒、血液透析、メタアナリシス、ナロキソン		36450226
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景：</b> 血液透析療法は急性アルコール中毒、特に急性重症アルコール中毒の治療に長年用いられてきた。</p> <p><b>目的：</b> 本研究の目的は、急性重症アルコール中毒患者において、従来の治療とナロキソンに血液透析を併用することが、従来の治療とナロキソン単独よりも利点があるかどうかを評価することである。</p> <p><b>方法：</b> 12 のデータベースと 2 つの臨床試験センターを検索した。定められた包含基準および除外基準に従って、適格な文献をスクリーニングした。アウトカム指標は、入院期間、昏睡時間、症状消失時間、全合併症発生率、肺炎発生率、誤嚥性肺炎発生率、肝機能障害および腎機能障害の発生率とした。解析には Revman 5.3 を用いた。</p> <p><b>結果：</b> このメタアナリシスには、932 人の被験者を含む 13 の研究が含まれた。急性重症アルコール中毒の治療において、従来の治療法に基づく血液透析とナロキシソンの使用は、入院期間を短縮することができた (WMD = -15.16、95%CI : -17.45~-12.86、p&lt;0.001)、日数では (WMD = -4.89、95%CI : -5.53~-4.25、p&lt;0.001)、昏睡時間 (WMD = -5.43、95%CI : -6.43~-4.43、p&lt;0.001)、症状消失時間 (WMD = -3.92、95%CI : -5.37~-2.47、p&lt;0.001) ; 全合併症発生率 (RR = 0.39、95%CI : 0.28~0.55、p&lt;0.001) ; 肺炎発生率 (RR = 0.14、95%CI : 0.05~0.43、p = 0.0006)、誤嚥性肺炎の発生率 (RR = 0.15、95%CI : 0.04-0.66、p = 0.01)、肝機能障害および腎機能障害の発生率 (RR = 0.21、95%CI : 0.06-0.72、p = 0.01) であった。</p> <p><b>結論：</b> 従来の治療とナロキシソンのみの使用と比較すると、急性重症アルコール中毒に対する従来の治療とナロキシソンに基づく血液透析の使用は、入院期間、昏睡時間、症状消失時間、およびいくつかの合併症の発生率を減少させることができると結論づけることができる。この結論を証明するためには、今後、大規模、多施設、かつ十分にデザインされた RCT が必要である。</p>		